

施策項目6 キャリア教育の充実

【評価結果】

【担当課：高校教育課(義務教育課、社会教育課)】



担当課HP

総合評価	進展あり
-------------	-------------

定量評価 [指標]	C
-----------	---

指標	評点	(a)	(b)	(c)	(d)
	評価数	1	0	1	2
	d評価となった指標	① ②			

定性評価 [施策]	進展あり
-----------	------

キャリア教育や主権者教育の充実に向けて、一人一人のキャリア発達への支援を充実させるため、学校教育指導訪問や研修事業等において、キャリア・パスポートの効果的な活用やインターンシップを含む体験的な学習活動の実施などについて、道教委が作成する手引等を活用して指導助言を行った。また、高等学校において、就業後3年以内に離職する割合が全国と比べて高い状況にあることから、「就職指導の改善に関する研究」に取り組み、その成果の普及・啓発を図ることにより、卒業時に、進学や就職などの進路希望を設定できない生徒の数は目標値を大幅に達成するなど施策の進展が認められた。

【施策の推進状況】

【P】・・・「Plan 令和3年度の主な施策」 【D】・・・「Do 主な取組の状況」
 【C】・・・「Check 施策の課題」 【A】・・・「Action 今後の方向」

《課題・背景》	<p>(1)一人一人のキャリア発達への支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校と社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を育むことができるよう、児童生徒のキャリア発達への支援の充実が求められている状況であるほか、高等学校では、進路の目標が定まらないまま卒業する生徒が一定程度存在 <p>(2)主権者教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意することが求められている状況 生徒が主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や、地域の課題解決を社会の構成員として主体的に担う力を身に付けさせることが必要
----------------	---

(1)一人一人のキャリア発達への支援の充実	
<p>①「キャリア・パスポート」の効果的な活用に向けた指導資料の作成・活用</p> <p>②「高等学校就業体験活動推進事業」の継続実施</p> <p>③「就職指導の改善に関する研究」の継続実施</p> <p>④高等学校が地域の自治体や産業界等と協働・融合してコンソーシアムを構築し、探究的な学びを通じて地域におけるキャリア教育を推進する「北海道CLASSプロジェクト(地学協働活動推進実証事業)」の実施</p>	<p>①道教委指導主事が、指導資料及び小(中)学校教育課程編成の手引を活用し、全ての公立小・中学校で指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> 活用事例を掲載した高等学校教育課程編成・実施の手引やリーフレット等を作成して、全道の高等学校に周知するとともに、校長会等において効果的な活用に向けて指導助言 <p>②専門機関によるアカデミック・インターンシップにも拡大して実施するよう指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施校114校、実施率58.8%(全日制道立高校194校) <p>③研究指定校6校の調査・研究が充実するよう学校訪問等による指導助言</p> <p>④道内4圏域(道央、道南、道北、道東)において、それぞれ推進校、連携校を指定</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に地域の魅力や課題を把握・整理し、課題の解決を通じた探究的な学びを実現 各圏域において、地域、大学、産業界等と協働した、コンソーシアムの構築(教員以外の人材をコーディネーターとして設定) 地域コーディネーターが抱える課題の解決及び資質の向上を図るフォローアップ研修を実施
[P]	[D]
<p>①指導資料「『キャリア・パスポート』の効果的な活用に向けて」等を活用し、各学校への指導助言を継続</p> <p>②大学卒業が前提となる資格を要する職業にも拡大して、就業体験活動を実施するよう指導助言を継続</p> <p>③定期的に打合せを行い、就職支援教員への指導主事による指導助言を継続</p> <p>④地域におけるコンソーシアムの構築や地域コーディネーターの役割などについて、指導主事による指導助言を継続</p>	<p>①「キャリア・パスポート」について、ほぼ全ての小・中学校において活用・引継ぎが行われていることから、今後は、キャリア教育の充実に向けたより効果的な活用を進めることが必要</p> <p>②大学等への進学率が高い普通科等の生徒も、いずれ就職先を選択する段階を迎えることから、アカデミック・インターンシップを含む就業体験活動の推進が引き続き必要</p> <p>③全国と比較して早期離職の割合が高いことから、高校生の職業意識を向上させることが必要</p> <p>④望ましい勤労観・職業観を育むため、地域と学校との連携・協働活動を推進する体制の確立や、教育活動が必要</p>
[A]	[C]

(2)主権者教育の推進	
<p>①学校教育指導訪問及び教科指導訪問を通じた指導助言</p> <p>②教育課程編成・実施の手引で主権者教育に係る内容の資料作成、実践事例等の記載</p> <p>③文部科学省委託事業「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」の成果の普及</p>	<p>①学校教育指導訪問及び教科指導訪問を通じて主権者教育の充実に向けた指導助言を実施するとともに、北海道議会事務局や道教委等が作成した資料等を活用して、適切かつ効果的に指導するよう指導助言</p> <p>②高校教育課Webページや手引において、選挙権年齢や成年年齢の引下げを踏まえた主権者教育の実践事例の紹介</p> <p>③研究指定校の取組を授業改善セミナーで紹介するとともに、公開研究会の開催による成果の普及</p>
[P]	[D]
<p>①学校教育指導訪問及び教科指導訪問を通じて「高等学校教育課程編成・実施の手引」を活用して指導助言</p> <p>②・③</p> <ul style="list-style-type: none"> 「高等学校教育課程編成・実施の手引」において、研究指定校で取り組んだ模擬選挙や模擬裁判等の具体的な実践事例を紹介 授業改善セミナー(地理歴史・公民)において、新科目「公共」の研究授業及び研究協議を実施 	<p>①～③</p> <ul style="list-style-type: none"> 主権者教育の指導の一層の充実を図るため、模擬選挙等の具体的な実践事例を紹介することが必要 主権者教育の中核となる教科「公民」の担当教員が、より実践的な学習を行うことができるようにするため、授業改善セミナーの内容について改善が必要
[A]	[C]

[指標の状況及び評価]

指標の内容	基準値	目標値（上段）						進捗率	評価	出典 (調査名等)	実施主体	調査期 日又は 調査対 象期間	指標の 対象	
		実績値（下段）												
		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	(R3)	(R4)							
① 「将来の夢や目標を持っている」という設問について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合(%) 【全国学力・学習状況調査】	小	(H29)		87.9	90.9	-	96.9	100	81.5%	c	全国学力・学習状況調査	文科省	R3.5.27	公立小・中学校
		84.8	84.8	84.0	82.0	(78.7)	79.0							
	中	(H29)		75.9	81.9	-	93.9	100	71.7%	d				
		69.6	69.6	71.3	70.6	(70.0)	67.3							
② 道立高等学校において、在学中に自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できる力を育成するため、インターンシップなどの体験的な学習活動を経験した生徒の割合(%)	(H28)		65.2	73.4	81.6	89.8	100	49.7%	d	インターンシップ実施状況調査	道教委	R3.4~ R4.3	道立高等学校	
47.8	66.6	70.0	65.0	60.9	44.6									
③ 道立高等学校において、卒業時に、進学や就職などの進路希望を設定できない生徒数(人)	(H28)		812	608	404	200	0	162.6%	a	生徒の実態等に関する調査	道教委	R3.8	道立高等学校及び道立中等教育学校後期課程	
1,220	90	23	35	31	R4.10									
評価結果	(a) 指標数	(b) 指標数	(c) 指標数	(d) 指標数	定量評価			C	d評価に対する今後の取組	① 指導資料「『キャリア・パスポート』の効果的な活用に向けて」等を活用した各学校への指導助言 ② 進学希望者においても、自己の将来について幅広く考えさせる観点から、アカデミックインターンシップを取り入れるよう各学校への指導助言				
	1	0	1	2										